（その 102）病気を治し、もう一度人生をやり直します（2014.3）

２月初旬、友人の紹介でＭさんが相談に来られました。
「栃木県生まれで６６歳、川崎に来て１０年位になる、日雇い仕事をしながら富士見公園で寝泊まり生活をしてきたが、食道静脈流と足は純浄性感染症になりむくみがひどく歩くのがやっとで働けなくなり生活保護を受けたい」という相談でした。
福祉事務所に同行し、２年ぐらい前、派遣の仕事で大阪に行った時仕事中に倒れ救急車で病院に運ばれ入院したこと、仕事仲間と共同生活ができず川崎に戻ってきたこと、それから一度も病院に行けてないこと等が話され所持金は１５円だけでした。
福祉事務所の担当者は、すぐに病院に行けるように手配し、簡易宿泊所を紹介し、当面の食量としてパンやカップ麺などを支給してくれました。
２月１３日の，Ｍさんは事務所へ「お陰さまで病院に行くことが出来痛みも取れました。久しぶりに暖かい部屋でよく眠れました。センターに会えなかったら大雪の中で行き倒れになっていたかと思うと・・・病気を治しもう一度人生をやり直すつもりで頑張ります。」とお礼に。
人の命を助けることができた喜びと、弱肉強食の「構造改革」路線の下であらゆる分野での状態悪化と貧困と格差が広がっている施策に怒りを覚え、早く貧乏のない世の中にしなければと決意を新たにした相談でした。